

特別陳列 よみがえった文化財【古美術】



県文《奥村永福夫妻画像》永福寺蔵
—「よみがえった文化財」より—

東京国立近代美術館工芸館名品展

いろどりとすがた

ガラス・染織・人形・金工から

■ 絵画と調度【前田育徳会尊経閣文庫分館】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

■ 石川の工芸教育【近現代工芸】

- 12月の企画展示室
- 展覧会回顧
- 企画展Topics
- 0才からのファミリー鑑賞会
- 12月の行事案内



藤田喬平《虹彩》1964年
東京国立近代美術館蔵
—「いろどりとすがた」より—

第2展示室

特別陳列

よみがえった文化財

11月23日(金・祝)～12月24日(月・休) 会期中無休

学芸員の眼

昨年度修復作品に《奥村永福夫妻画像》(表紙)があります。永福(二五四一～一六二四)は尾張荒子の時代より前田利家の父利春や兄利久に仕え、利家に従い能登の末森城の城将となり、佐々成政の攻撃から城を守り抜いた前田家の重臣です。修復後初公開に合わせて、末森城の戦いの際に永福が使用したとされる兜や陣羽織を公開します。また前田家では、明治時代に初代利家をはじめとする一族の肖像画模写と同時に、家臣の肖像画模写も行いました。そこに含まれる永福像の模写作品も展示しますので、奥村永福その人を偲んでいただきたいと思います。このように、文化財を後世へ守り伝えていくための学芸員と修復技術者の活動を紹介します。常時公開している修復工房と合わせて是非ともご覧下さい。

石川県は、平成九年(一九九七)に石川県立美術館の付属施設として、石川県文化財保存修復工房を開設しました。平成二十八年(二〇一六)には、建物の老朽化に伴い美術館の広坂別館に隣接してリニューアルオープンしました。主として地元北陸の文化財修復の拠点となるべく実績を重ねています。修復工房では、(二財)石川県文化財保存修復協会の修復技術者が、指定文化財をはじめとする多数の作品の修復を手がけています。昨年には修復工房の二十周年を迎え、企画展「よみがえった文化財」を開催することで、文化財の保存と修復の視点から、加賀の文化や歴史をあらためて概観し、修復工房の歩みとともに、文化財の保存と修復の現状・今後の展望を考察しました。

本展では、昨年度手がけた修復作品の中から指定

文化財を中心に紹介しますが、その多くが修復後初公開の貴重な機会となります。また、修復過程も合わせて紹介いたします。北陸の文化財を守り伝えていくという地域に根ざした美術館と修復工房の活動を知っていただく機会となれば幸いです。

主な展示作品

重要文化財 石黒信由関係資料(高樹会所蔵)

石川県文 奥村永福夫妻画像(永福寺所蔵)

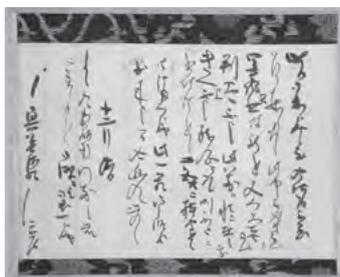
石川県文 黒楽茶碗 銘北野 添状

(石川県立美術館所蔵)

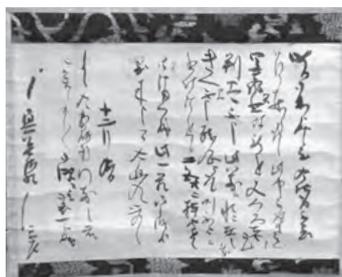
金沢市文 仏涅槃図(高巖寺所蔵)

白山市文 林西寺本白山曼荼羅図(林西寺所蔵)

七尾市文 十三仏画像(妙観院所蔵)



石川県文《黒楽茶碗 銘北野 添状》修復後



石川県文《黒楽茶碗 銘北野 添状》修復前

優品選【近現代絵画・彫刻】

11月23日(金・祝)～12月24日(月・休)
会期中無休

この会期は、東京国立近代美術館工芸館名品展の開催に伴い近現代の絵画・彫刻部門を三室から二室に縮小し展示しています。

日本画は前回に引き続き「日本画と異国情緒」をテーマに展示しています。明治期から果敢に西洋的な文物に挑戦してきた日本画。しかし、絹本に薄塗りの岩絵具というマチエールでは少々の違和感を覚えます。戦後、岩絵具を厚塗りするマチエールが流行すると、異国情緒を見事に表現できる日本画作品が増えました。現代感覚豊かな当館所蔵品をお楽しみください。

洋画からは、自画像二点を紹介します。心臓手術を終えた自らをポンコツ車に例えた、脇田和《ポンコツ車を誘導する鳥》と、鴨居《1982年私》。画

風も何もかも違う二点ですが、自身がおかれたシチュエーションを自虐的でユーモラスに表現している点では共通するのかもしれませんが。

彫刻作品は、アルミニウムや鉄など、金属を素材とした抽象彫刻を中心に紹介します。モダンアート展や野外彫刻展・野外モニュメント制作などで活躍する重田照雄の《心意空間》や、直線と曲線を共存させたフォルムに特徴がある島屋純晴《UNITY 18 大地から空間へ》などは、どこから眺めても楽しい作品です。現代的な感覚を感じる金属彫刻をお楽しみください。

版画からは脇田和のシルクスクリーンをご紹介します。《首回り》、《ワイシャツ》、《くつした》、いずれも脇田和のセンスある暮らしぶりが伝わります。



脇田和《首回り》

絵画と調度

11月23日(金・祝)～12月24日(月・休)
会期中無休

「調度」を辞書で調べると、日常使う手回りの道具や器具類、また小型の家具と書いてあります。今回の特集は調度に改めて着目するものですが、加賀藩主・前田家の道具類という点で、日常のニュアンスが今日とは少し異なります。そして展示される文台・硯箱や脇息、刀掛などは、前田家においても貴重なものとして分類されてきたものです。

大名家の調度といえば、婚礼調度も連想されます。一八二七年に、十一代将軍徳川家斉の息女浴姫が、加賀藩十三代藩主・前田斉泰のもとに輿入れしました。その際に、江戸の同家上屋敷の南に造営された門が現在の東京大学赤門です。今回は輿入れの際の持参道具から、文房具と化粧道具の一部を展示します。いずれも黒漆塗で金蒔絵により葵紋を散らした

若松唐草があしらわれているのが特徴です。また関連して、《姫君入輿行列図巻》も展示します。

その他絵画では、狩野探幽の大作《達磨渡江図》に注目したいと思います。禅宗をインドから中国へ伝えたとされる達磨が、蘆の葉に乗って揚子江を渡ったという「蘆葉達磨」の説話を描いた本図は、当初加賀藩の江戸上屋敷にあった達磨亭の床壁貼付だったものを剥がし、軸装に改めたものです。水墨の作例が多い「蘆葉達磨」に著色で挑戦し、また右斜め後方から対象を捉える異例の構図をとるなど、発注者の前田家と幕府の御用絵師・探幽との創造的な取り組みが感じられます。今回はさらに、前田家十六代・利為が収集した日本画、木彫も展示します。

《達磨渡江図》狩野探幽

いろいろとすがた ガラス・染織・人形・金工から

11月24日(土)～12月24日(月・休) 会期中無休

東京国立近代美術館工芸館は、二〇二〇年を目標に、石川県へ移転します。そこで、工芸館のコレクションをより多く方にご覧いただくため、二〇一六年から展覧会を開催しています。本年は、「いろいろとすがた」と題し、「ガラス・染織・人形・金工」の四分野から五十五点の作品をご紹介します。

滝つぼに勢いよく流れ落ちる水のすがた、差し込む光にきらめく虹のいろいろを表した、藤田喬平《虹彩》。熱すると柔らかかにとろみを帯びるガラスの性質を活かし、ホットワークの技法で制作されています。発表した際、藤田自身が「流動ガラス」と呼んだように、ガラスのうごめく姿が瞬間的に捉えられているかのようです。

作品を前にした時、まず目に飛びこんでくる要素である「色」や「形」は、素材や技法と深く結びついています。作品のいろいろとすがたを通して、作家の探求が生み出す多彩な表現をお楽しみください。

会期中には、様々なイベントを開催予定です。みなさまのご来場をお待ちしています。なお、オープン日が他のコレクション展示より一日遅い十一月二十四日(土)からとなっております。ご注意ください。



高橋禎彦《花のような》2004年



喜多川平朗《能衣装唐織黒紅段》1962年



面屋庄甫《根っここの唄》2013年



佐々木象堂《蠟型鑄銅置物 瑞鳥》1958年

いずれも東京国立近代美術館蔵

◆ミュージアムコンサート

日時 十二月十五日(土) 十三時三〇分～十一時(開場十時)

演目 「和洋の織りなす夢幻」

◆講演会

日時 十二月十五日(土) 十二時～十二時三〇分

講師 小笠原小枝氏(日本女子大学名誉教授・東京国立博物館)

客員研究員

◆演目 「近現代の染織」

◆アーティストトーク

日時 十二月九日(日) 十四時～十五時

講師 三代畠春斎氏(金工家・出品作家)

◆ギャラリートーク

十一月二十四日(土)・十二月十六日(日)・十二月二十三日(日)・十二月二十四日(月・休)

いずれも十一時～

◆タッチ&トーク

十二月二日(日) 十四時～十五時

※当日申込受付・先着十名

※参加費不要ですが観覧券が必要です。

第6展示室

納富介次郎没後100年 石川の工芸教育

11月23日(金・祝)～12月24日(月・休)
会期中無休

第6展示室では、明治から戦前にかけての石川の工芸教育を振り返ります。二〇一八年は、工芸教育界の先駆者である納富介次郎(一八四四～一九一八)の没後百年にあたります。納富は、明治六年にウィーン万国博覧会に事務官として参加、続いて九年のフィラデルフィア万国博覧会の事務官を務めます。その際、展覧会出品のための図案指導書として納富が編集に携わったのが、『温知図録』第一輯(東京国立博物館蔵)です。納富は十五年と十九年石川県に巡回教師として招かれ、それを契機に、明治二十年、金沢工業学校(石川県立工業高校の前身)が設立されます。その頃の教師陣には、相川松濤、友田安清、初代諏訪蘇山、村上九郎作らがあり、また後に板谷波山、久保田米遷、

鈴木華邨、山田敬中らに加わりました。納富は十四年に金沢を離れ、その後二十七年に高岡、三十一年に高松に工芸学校を設立し、三十四年には佐賀県立工業学校長に就任します。本展では、明治初期に銅器や漆器、製陶の技術伝習を目的として設置された石川勸業場や、その後身である石川県勸業試験場の作品、また『温知図録』にその下図が掲載される阿部碧海製・春名繁春画《色絵金彩海龍図花瓶》や松本佐平《金欄手官女奏楽図双耳花瓶》など近代九谷の変革期を代表する作品を展示します。そして金沢工業学校の草創期の教師陣や、石野竜山、松原新助など、納富の金沢時代を支えた人々の作品をご覧いただきます。



阿部碧海製・春名繁春画
《色絵金彩海龍図花瓶》

十二月の 企画展示室

日本美術院は岡倉天心らの呼び掛けにより明治三十一年(一八九八)、横山大観をはじめとする日本画家二十六人が集まり創設されました。近代日本画の歩みでは日展とともに、巨大な足跡を築いてきています。

日本美術院理事長の田淵俊夫氏、那波多目功一氏(日本芸術院会員)、滑川市出身の下田義寛氏など同人三十四点、一般からの入選作六十七点の合計一〇一点が公開されます。金沢展の巡回は平成二十七年(二〇一五)年以来、三年ぶりです。日本最高峰の洗練された作品群をご覧ください。

◇主催／日本美術院、北國新聞社、石川県立美術館、財団法人石川県芸術文化協会後援

◇後援／石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、財団法人石川県美術文化協会、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラ

◇入場料

ジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオなお、北國新聞文化センター、金沢ケーブルテレビネット

団体	前売り	当日	一般	中・高生	小学生
	九〇〇円	一、〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円	三〇〇円
	四〇〇円	五〇〇円	四〇〇円	三〇〇円	
	三〇〇円	四〇〇円	三〇〇円		

※団体は二〇名以上

◇連絡先／北國新聞社事業局
TEL 〇七六一二六〇一三五八一

1階企画展示室

再興第103回 院展金沢展

12月6日(木)～19日(水) 会期中無休

石川県立美術館開館35周年 石川近代美術の100年

平成31年1月4日(金)～2月4日(月) 会期中無休

石川県立美術館は昭和五十八年の新館開館以来、明治以降現代までの石川県ゆかりの作家による、絵画・彫刻作品の収集に務めてきました。平成三十年十月時で、日本画三六七点、洋画八六八点、彫塑一九九点、水彩・素描・版画五一七点、計二〇五一点となり、全所蔵数三九〇六点半ばを越えるに至っています。

本展は石川近代美術のあゆみを、Ⅰ. 明治期・模索の時代、Ⅱ. 大正から昭和戦前・戦中まで・展開期、Ⅲ. 昭和戦後から平成・多様化へ、の三部構成とし、美術館収蔵の絵画・彫刻作品を中心にとどるとともに、三十五年間の収集の成果を示すものでもあります。

主な出品作家は、明治期では本県の後進に大きな影響を与えた日本画家・垣内右隣、梶野玄山、高村右晔や山田敬中、ヨーロッパ留学の経験を持つ洋画家佐々木三六、早田榮斎、彫刻家では木彫の松井兼運、相川松濤、村上九郎作等、大正から昭和戦前期に活躍した相川松瑞、広田百豊、伊東哲、吉田三郎、中島東洋、戦後では西山英雄、石川義、高光一也、宮本三郎、松田尚之、長谷川八十、鴨居玲、そして中川一政や脇田和など。多士済々の石川ゆかり作家の代表作でご覧いただく、石川近代美術展の決定版というべき展覧会です。ぜひご覧ください。

観覧料(2階コレクション展示観覧料含む)

一般 600(400)円 大学生500(300)円

高校生以下無料



山田敬中《春秋山水図》
対幅のうち春景

展覧会回顧

石川県立美術館開館35周年
日本伝統漆芸展第35回記念

URUSHI 伝統と革新

展覧会のタイトルで、なぜ「漆」をローマ字で表記するのかという質問が何度かありました。英語で漆器のことを「JAPANESE」と呼ぶこともありますが、これはいわゆる日常使いの器を含む表現です。日本では環境的な好条件が重なり、漆工芸が世界に類を見ない美術工芸として、技術的にも芸術的にも大きく発展しています。あえてローマ字表記のタイトルとしたのは、出品作を日常の器と一線を画した、日本独自の芸術として紹介するためです。

明治時代から現代までの漆工芸の名品をほぼ年代順に展示したことで、全体をじっくりと時間をかけて鑑賞されるお客様が多く、とりわけ本展を象徴する存在とも言える、漆聖・松田権六の作品を展示した第一室では、平成十九年の「松田権六展」以来十一年ぶりに同じ展示室に並んだ、広島県立美術館所蔵の《鷺時絵棚》と館蔵品の《蓬萊之棚》の前で、長い時間を止めていた方をよくお見かけしました。

現在活躍する漆芸作家の内、人間国宝全員の作品を二点ずつ、その他の作家は一点ずつ、すべて自選での出品でしたが、開催まであと少しという時点で、山岸一男氏の重要無形文化財保持者への答申があり、急遽作品を追加、キャプションや図録の記載事項を変更するという嬉しいハプニングもありました。

本展はこれから二会場を巡回します。企画から開催に際して多大なご協力を賜りました、ご出品者ならびに関係者各位に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。



平成31年1月4日(金)～2月4日(月) 会期中無休



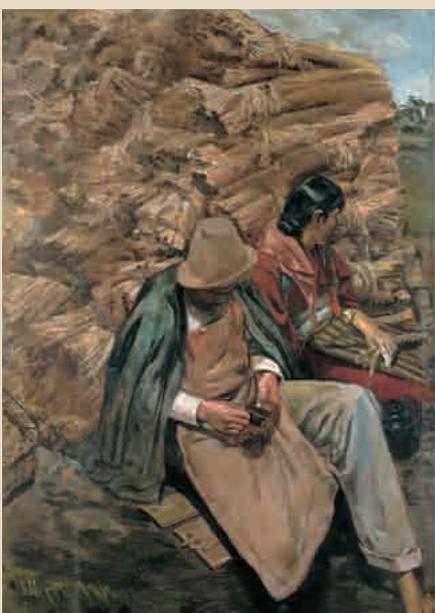
佐々木三六 《石浦神社》 明治31年



松井兼運 《大和武尊像》 明治13年



友田九溪 《月夜双狼図》 大正2年



高光一也 《秋I》 昭和11年
石川県立工業高等学校蔵



紺谷光俊 《八百屋之図》 大正3年



吉田三郎 《山羊を飼う老人》
昭和18年

次の展覧会

平成31年1月4日(金)
～2月11日(月・祝)

		前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
		新春優品選	新春優品選 【古美術】
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	1F企画展示室
新春優品選 【近現代絵画・彫刻】	新春優品選 【工芸】	現代日本の書家たち	石川近代美術の100年 1月4日(金) ～2月4日(月)

ご利用案内

コレクション展観覧料
一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(12月は3日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

12月の休館日は
25日(火)～31日(月)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ 092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第422号(毎月発行)
2018年12月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>